

# — 議事要旨 —

日時	令和5年10月26日(木) 14:00～
場所	総合福祉保健センター1階 多目的ホール
出席委員	塩谷委員、中井委員、武田委員、大隈委員、 坂口委員、森本委員、平岩委員
欠席委員	若林委員、大崎委員、野原委員、小南委員
庶務	共生社会部：岸本部長 健康共生室：中田室長、福祉共生室：鶴室長 健康増進課：吉本課長、上月副課長、関係長、西山、野口 地域福祉課：宮城課長、中井係長 株式会社サーベイリサーチセンター (SRC)：西川主任研究員

## 【次第】

### 1 開会

- ・事務局開会あいさつ

### 2 挨拶

- ・会長よりあいさつ

### 3 報協議項

#### (1) 第3次三田市健康増進計画・第2次三田市自殺対策計画素案について

- ・素案全体の第1～3章について …資料1 (P. 1～P. 54)

(意見なし)

- ・第4章 健康増進計画部分及び評価指標について …資料1 (P. 55～P. 79)、資料2

#### 事務局

資料に沿って説明

#### 会長

資料2を見ると、目標値について、国・県でも設定されているものとされていないものがある。目標値は国のものがあれば国、国がなければ県と整合性を取り、県もなければ三田市独自で設定している。資料1の55～56ページで意見はあるか。「検討中」となっている指標も多いが、データヘルス計画の目標設定が決まれば書いていくようになるのか。

#### 事務局

特定健診受診率については、現在策定中のデータヘルス計画と整合をとる予定。国の計画では受診率60%が目標値となっており、現状の三田市の受診率の倍になってしまうことから、現状に合わせた目標値とすることも検討している。国保のデータヘルス計画の事務局と

調整していく。

#### 会長

「18～30 歳代女性のやせの割合」は、三田市はすでに国の目標値をクリアしているが、「11.6%」は何の数値をとっているのか。

#### 事務局

国の目標値はクリアしているので、18 歳以上の女性全体のやせの平均値を設定している。

#### 委員

全世代ということは、高齢者も入っているのか。

#### 事務局

入っている。アンケート結果から把握しており、本人が書いた身長・体重から算出したもので、健診結果によるものではない。

#### 会長

18 歳以上にするか、前期高齢者と後期高齢者とを分けたり、18～64 歳の平均値も考えてもらえたらと思う。

#### 委員

18～64 歳まででも良いと思う。

#### 委員

子どもについては、BMI でやせでも、見た感じはそこまでやせていない印象がある。高齢者については、やせで病気になる人はそれほど多くないのではないかと。やせや肥満をどうこうするのは難しいと思う。BMI の肥満の基準はあるが、やせの基準はない。

日本では大都会と田舎が大きく分かれている。三田市もニュータウンと旧市街地で分かれており特徴も異なるため、市全体で判断するのは難しいかもしれない。体格の目標値についてはあまり厳しくしない方が良いと思う。

#### 委員

一概にやせ・肥満は違う。特に問題になるのは、学生ではないか。大学での栄養相談では、食事のバランスが悪い女子学生が多い。しっかり食べて痩せている人ならいいが、太らないために摂取量を減らし、お昼ご飯に食事ではなくお菓子で済ませる学生が多い。運動して痩せている人が多いのであれば良いが、ただ痩せているだけというのは問題があるのではないかと。やせており骨密度が低い子や出産に耐えきれない人もいる。健康的に痩せている子のイメージは難しい。

## 会長

資料2の19ページ「目標設定の必要性」の下から2行目に記載のように、やせには大きな問題をはらむ。目標設定の考え方として、18～64歳の平均値にするのか、全世代の平均値にするのか、もしくは前期高齢者までの平均値にするのか検討してもらいたい。

## 事務局

次回までに検討する。

## 委員

資料1「たばこ対策」の市民一人ひとりの取り組みについて、「妊娠中の喫煙は必ずやめます」とあるが、妊娠中だけで良いのか。その前から吸わないようにしないと意味がないのではないのか。

## 委員

昔はたばこを吸うのが当たり前だったが、今の若い人はあまり吸わないのではないのか。

## 委員

食生活相談で相談を受けた方は、全員たばこを吸っていなかった。逆に吸っている方は、子どもがいても関係なく吸っている人が多く、受動喫煙になる。

## 委員

若い人は電子タバコを吸っている人が多いが、電子タバコも紙タバコと同様に健康に良くないのか。

## 委員

電子タバコでもCOPDの影響はあまり変わらない。

## 委員

お酒は18歳でなくて、20歳までダメなのか。

## 委員

お酒は20歳から飲める。

## 委員

未成年とあるが、成人年齢が変わったので、「20歳未満」とした方が良いと思う。

## 会長

18歳と20歳はきちんと法律的に確認しておいてもらいたい。他に議論すべき点はあるか。

## 事務局（SRC）

「適正体重を維持している人の割合」について、現在は目標値を「増加」と設定しているが、ライフコース別の目標設定を達成したと仮定して数値を算定すると、男性が 69.4%、女性が 68.4%となる。数値を設定した方が良いか。

## 会長

「増加」とするのはあいまいになるので、数値を出せるのであれば設定した方が良いのではないか。数値を入れる形でも良いか。

## 委員一同

異議なし。

## 事務局

地域で取り組む健康づくりの、「健康づくりに関係したボランティア活動に参加している人の割合」の設定についてどうか。国では「就労も含めた社会活動を行っている者の割合」としている。三田市総合計画にあるような、「地域活動に参加している人の割合」を設定することもできると考えている。

## 委員

ボランティアも近年では厳しい点がある。活動を引き継ぐ人がいない問題もある。指標を設定して、活動者をがんじがらめにするのもどうかと思う。今の世の中は何でもボランティアになっているが。

## 委員

社会的孤立の視点でみると、地域のつながりや役割が重要と言われている。高齢者になっても、経済的な自立を考えて 65 歳の定年を迎えても働かないといけない状況もあるが、就労を終えて地域で暮らしていると、地域のつながりがいない人は孤立しがちになる。地域の中でつながりがあることは大事だと思う。

## 委員

自治会の活動については、若い人も高齢者も自治会に入らない人が増えてきている。

## 会長

国では就労・就学も含む指標となっているが、三田市としての代案はあるか。

## 事務局

三田市総合計画では、「地域活動に参加している人の割合」、三田市食育推進計画では「1日に1回以上、家族や友人と一緒に食事をする人の割合」があり、それを設定することも可能と思っている。

## 会長

社会活動の定義に合うのか。また、調査の中に就労している人は入るのか。

## 事務局

指標は複数入れても良いのではないかと考えている。「地域活動に参加している人の割合」は、市民意識調査で把握する指標で、様々な年代の人、就労している人もしていない人も入っている。今回の計画策定のための市民アンケート調査では設問として入っておらず現状値がないものも、中間評価の際のアンケートで設問として入れることも可能と考える。

・第4章 自殺対策計画部分及び評価指標について …資料1 (P. 80～P. 91)、資料2

## 事務局

資料に沿って説明

## 会長

よくまとめられていると感じたが、委員の先生から意見をいただきたい。自殺率の減少の目標は 8.6 以下にするということで、国と比較して三田市ではもともと低いところからさらに下げる設定となっているのは良いことだと思う。また、国・県の目標値には設定されていないが、高校生と 18 歳以上で相談窓口をいずれも知らない人の割合を下げるとか、実施校を 9 校にするなど。県や国より自殺率が低いところについて、アンケート調査等に基づいて新たな取り組みをしようという形だと思う。

## 委員

相談できる窓口について、診療所に毎年ポスターが届いている。いのちの電話など、ポスターは貼っているが、電話番号を覚えているかと言うと覚えていない。中学生や高校生が一番の問題で、最近小学生も自殺がある。小中学校にもポスターは配布しているのか。

## 事務局

小中学校や高校にも配布している。今年度は、市内の公立中学校に、若い間から自殺の相談先を知ってもらうためにクリアファイルを作成し、二次元コードを付けて、相談先等を読み取れるように取り組んでいる。これは継続して拡げていきたいと考えている。

## 委員

長期休暇等の休み明けに名刺サイズのカードが配布されている。また、いじめアンケートや悩み相談に関するアンケートも休み前に実施している。

## 事務局

クリアファイルで配っているものも、意味合いとしては同じものになる。

## 委員

高齢者調査で訪問していて、たまたま兄弟 2 人暮らしになった人で、下の子が高校生の兄

弟の話を聞いた。お兄さんの方は何歳かは分からない。また、現状が分からないが、相談に行こうと考えていたが、三田市で相談して訪問してくれるところはあるのか。相談先は地域包括支援センターで良いのか。

#### 事務局

地域福祉支援室で、最寄りの地域でこういう家庭があるということ、気になる世帯があるということ投げかけてもらえればと思う。現状が不明であっても、一度問い合わせてもらえればと思う。または、福祉総合窓口でも構わないと思う。

#### 委員

相談窓口をいずれも知らない人が多いのは気になる。相談することはなかなか難しいので、先ほどの話のあった二次元コードも良いと思う。

#### 会長

資料2の47～48ページで、高校生と18歳以上で目標としては相談窓口を知らない人を50%にするとなっているが、県の目標は知っている人が60%となっているので、市も同様に40%にしてはどうか。知らない人の割合を50%にするという目標は低いのではないか。数値を考え直してもらいたい。

#### 委員

県はどうしてこんなに高く設定しているのか。独自に何か実施しているのか。目標数値だけ高く設定しても無理なのではないかと思う。計画素案の中に、危機経路の図がある。自殺した人に聞くことはできないので、周りの人への聞き取りの結果なのか。いじめが原因とかの場合、学校などは自分に不利なことはあまり言わない場合もあると思う。ほとんどが本当の原因は分からないのではないかと思うが。

#### 事務局

資料のすべてを読んでいるわけではないが、出典は2013年の資料で、自殺の遺族会で聞き取りを行っているものになるので、自殺原因について確認されたのは、遺族から聞き取った結果だと思う。

#### 委員

先ほどのクリアファイルについては、ポスターより良い取り組みだと思う。

#### 事務局

市内の中学生全員に配布している。

#### 委員

いつのタイミングで配布しているのか。

## 事務局

夏休み明けに自殺者が増える傾向があるため、夏休み明け前に学校に配布した。今後も継続したいと考えている。

## 会長

すごく良いと思う。全国でも三田市だけではないか。若者、学生には効果的だと思う。もっと広めてもらいたい。

## 委員

資料1の85ページについて、子ども期だけ当事者が一番上になっているが、他は支持者が上になっている。何か意味があるのか。

## 事務局

並べる順番を合わせるように修正する。

### ・第5章について …資料1 (P.92～P.94)

## 事務局

資料に沿って説明

## 委員

それぞれの役割について、保健医療があるが、福祉は含まれないのか。

## 委員

福祉を追加して、分けて記載した方が良いのではないか。

## 事務局

整理して次回再度お示しする。

## 会長

基本理念の「さんだ」は平仮名なのか。

## 委員

漢字表記の「三田」の場合、「みた」と「さんだ」が混同されることもあるので、ひらがなで良いと思う。

## 会長

今日の意見を踏まえて、もう一度、修正できるところは修正して次回に示してもらいたい。

#### 4 その他

- ・事務局より、次回以降の会議日程について説明  
(次回、第5回会議は、11月16日(木)14時から開催予定)

#### 5 閉会